

福岡医療短期大学

（事業期間：平成26年度～平成30年度）



事業の概要・目的

（大学の課題）

本学は専門教育の実践を通して、「汎用的能力（Generic skills）」の育成に努めてきましたが、卒業生対象の卒後追跡調査において一部の能力の定着度が低いことが明らかになりました。質の高い医療・福祉系人材の養成を目的とする本学の教育上の課題として、『学生の主体的・積極的な参加を促す教育方法（アクティブ・ラーニング）の充実』と『学生が修得すべき能力（学修成果）の評価法の改善（可視化）』の取組を推進する必要性が見出されました。

汎用的能力（Generic skills）：

ビジネスリーダーとしての職務が期待される年代（30代前半）までに、獲得されることが望ましい、おおよそどのような職務遂行にも普遍に求められる能力

（課題解決のための取組）

上記の教育課題に対応するため、下記の2つを達成目標として本教育事業を推進していきます。

- (A) 卒業後の専門職としての汎用的能力の定着の向上
- (B) 医療・福祉系アクティブ・ラーニング教育改善モデルの提唱

また、最終成果物として、他の医療・福祉系実践教育や短期大学保育学等においても共有・活用できるように、アクティブ・ラーニング事例集を作成し、ルーブリックを活用した医療・福祉系実践教育における教育改善モデルを提唱します。

人材育成の取組

（養成する人材像・具体的な達成目標）

- 汎用的能力を活用できる質の高い医療・福祉系職業人
- 卒業後1・3年目の専門職としての汎用的能力の定着の向上
- 医療・福祉系実践教育のみならず短期大学保育学においても活用できるアクティブ・ラーニング推進教育改善モデルの提唱

（取組内容）

- 汎用的能力判定テスト
- 学修行動等の学生アンケート調査
- 産業界のニーズを反映したルーブリックを用いた学修評価
- 初年次・インターンシップ前・インターンシップにおける6種類のアクティブ・ラーニング教育プログラム

本取組から得られる教育成果を本学の新たな人材養成機能の質的転換と抜本的強化の糧とすることで、本学の大学改革の加速が図れます。

さらに、大学全体のアクティブ・ラーニング実施体制の強化とともに、学修支援環境の充実を図ることができま。

●事例1（歯科衛生士概論/1年次前期1単位）

「マインドマップ活用プログラムにおけるジェネリックスキル評価の取組」

入学当初から学生の主体的な学びを支援するために、アクティブ・ラーニングの手法としてのマインドマップを活用し、対人コミュニケーション能力等の汎用的能力（ジェネリックスキル）を育成する初年次導入教育プログラムを実施しました。その教育プログラムの中で、学生のプレゼンテーション（発表）に対する客観的な評価方法としてルーブリック評価を用い汎用的能力を測定しました。

実施した教育プログラムに関する学生アンケート調査（4点法）を通じた学生満足度等の学生評価と学生のニーズの把握を行うとともに、ルーブリック評価の指標を統計学的に解析する具体的な改善の方策を検討しました。それらの教育成果の一部を下記の学術論文として取りまとめました。



1) 大倉義文 他. 初年次導入アクティブ・ラーニング教育におけるルーブリック評価～ルーブリック評価の指標を活用する授業プログラム改善の方策～ 全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌. 2015.4: p32-45.

2) 大倉義文 他. 歯科衛生士初年次教育プログラムへのルーブリック評価の導入～マインドマップ活用プログラムにおけるジェネリックスキル評価の方策について～ 全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌. 2015.4: p46-56.

●事例2（歯科衛生士概論/1年次前期1単位）

「汎用的能力判定テスト（PROGテスト）の実施」

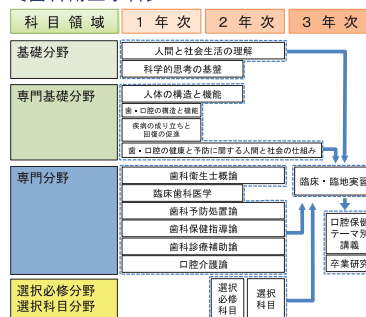
新入生を対象に実施した汎用的能力判定テスト（PROGテスト/リアセック社）の成績と1年次前期の専門科目成績との関連について検討し、下記の学術論文として取りまとめました。

3) 大倉義文 他. ジェネリックスキルと歯科衛生士初年次科目成績との関連. 全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌. 2015.4: p22-31.

（卒業後の学生のイメージ）

- ① 広く医療・保健・福祉に携わる教養と良識を備えた有能な人材
- ② 汎用的能力を活用できる質の高い医療・福祉系職業人
- ③ 地域・産業界のニーズに適切に対応できる人材
- ④ 高度化・専門化する口腔医学と歯科医療にも対応できる人材

カリキュラムマップ 〔歯科衛生士学科〕



（福岡医療短期大学の特徵）

本学は、その「建学の精神」である「教養と良識を備えた有能な歯科衛生士、介護福祉士の養成」に基づき、キャンパス内の歯科大学・医科歯科総合病院・介護保険施設を教育・研究の場として活用し、産業界の求める人材育成の観点から専門教育の実践を通じた学士力、社会人基礎力等の育成・評価を実施し教育改革を進めています。

この取組を通じて、これまで取り組んできた「大学生の就業力育成支援事業」「産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」等の教育事業実績を踏まえ、質の高い医療・福祉系人材の養成を目的とする『学生の主体的・積極的な参加を促す教育方法（アクティブ・ラーニング）の充実』と『学生が修得すべき能力（学修成果）の評価法の改善（可視化）』を加速させていきます。

具体的な実施計画における指標	25年度	28年度 (予定)	30年度 (目標値) (目標値)	具体的な実施計画における指標	25年度	28年度 (予定)	30年度 (目標値) (目標値)
	アクティブ・ラーニングを導入した授業科目数の割合	71.4%	75.9%		80.4%	退学率	2.95%
アクティブ・ラーニング科目のうち、必修科目数の割合	92.5%	92.9%	93.3%	プレースメントテストの実施率	74.8%	100%	100%
アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合	100%	100%	100%	授業満足度アンケートを実施している学生の割合	93.2%	95%	95%
学生1人当たりアクティブ・ラーニング科目受講数	16科目	17科目	18科目	上記アンケートにおける授業満足率	86.9%	90%	95%
アクティブ・ラーニングを行う専任教員数	20人	20人	20人	学修行動調査の実施率	93.2%	95%	95%
学生1人当たりのアクティブ・ラーニング科目に関する授業外学修時間	(不明)	3.5時間	7.0時間	学修到達度調査の実施率	0%	100%	100%
				学生の授業外学修時間	2.4時間	7時間	14時間
				学生の主な就職先への調査	実施有り	実施予定	実施予定

教育プログラムを体験した学生の感想



福岡医療短期大学
保健福祉学科 2年次
野口 美紗稀

入学してすぐにマインドマップを作成し自己紹介をする教育プログラムに取り組みましたが、自分の気づかなかった短所・長所が発見できました。取組の中で、友達やまだ話したことのない人たちのいろいろなことを知ることができ、さらにPROGテストにより自分のリテラシー能力とコンピテンシー能力を知ることができました。卒業までに、インターンシップとしての学外実習に参加しますが、その際にも、リテラシー能力とコンピテンシー能力を意識して取り組みたいと思います。